

古河歴史見聞録

古河で見る隅田川の春景色

屏風のなかの桜景色

お花見の季節になりました。古河でもハナモモが見頃を迎えますが、日本人にとって、まず花見といえは、なによりも桜見物のこと。ここにも紹介するのは、桜の名所で



▲奥原晴湖「墨堤春色図屏風」明治20年(古河市指定文化財)

ある隅田川の墨堤に取材した作品「墨堤春色図屏風」です。明治期に活躍した古河出身の南画家・奥原晴湖(1837-1913)年によって描かれました。

西岸から眺めた春爛漫の隅田川の景色を、西洋絵画の遠近法を取り入れて描いた近代的な趣向の山水図で、晴湖の代表作に数えられるものです。吾妻橋や三囲神社、待乳山など、隅田川のさまざまなランドマークが配され、名所図としても楽しむことができる逸品といえるでしょう。また、屏風の右上に記された篆書の漢詩は晴湖が詠んだもの。青々と茂る垂柳と無数の桜が咲く墨堤の美しい春景色のなかで、舟遊びをする情景が詠い上げられています。

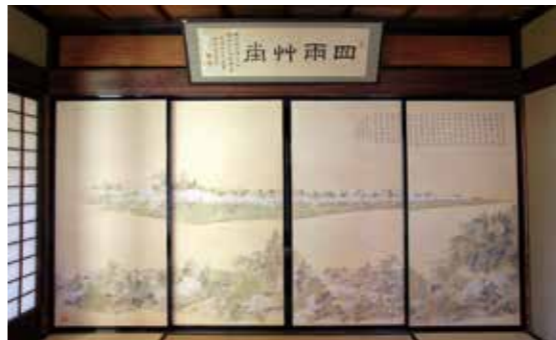
もとは襖絵

さて、この作品は、その名の通り二曲一双の屏風ですが、もとは新潟のある屋敷の襖絵として制作されたものといわれます。現在、新潟県内最古の民家として重要文化財に指定されている長谷川邸

(旧長谷川家住宅)です。

長谷川家は新潟県長岡市塚野山の旧家。江戸時代初期に塚野山に居を構え、代々庄屋を務めた豪農です。第10代当主久家(1858-1896)は、長谷川邸の離れである新座敷を改修するにあたり、その二階の襖絵の揮毫を晴湖に依頼したのです。

新座敷二階の襖を閉めた、私的で密やかな空間。目の前に広がる東都の名高い桜景色。雪国の風雅



▲長谷川邸に再現された襖絵 (写真提供：長岡市立科学博物館)

人は、詩に詠まれた舟遊びの人物に自らの思いを託し、自宅でのゆつたりとした花見酒を楽しんだのでしょうか。この襖絵は、開閉によって画面が傷む可能性があることから、間もなく現在の屏風に改装されたと伝えられています。

長谷川邸に襖絵再現

ところで、長谷川邸の主屋は宝永3(1706)年に類焼し、享保元(1716)年に再建されたものといわれます。平成28年、長谷川邸主屋再建三百年記念の際、この作品の高精細複製画の襖絵が、新座敷に再現されました。毎春、桜の咲く時期に合わせて公開されているそうです。

さて、現品の屏風作品も、古河歴史博物館にて公開中です。平成10(1998)年、長谷川家から晴湖の生まれ故郷古河に寄贈いただいた、当館所蔵の珠玉の名品です。展示室でのお花見をぜひお楽しみください。(テーマ展「春の景」は4月22日(水)まで) 古河歴史博物館学芸員 倉井直子

【一般書/小説】 20(にじゅう)

石川智健 著

殺人の証明ができなければ、娘の命はない。仕掛けられた不可解なゲームに、正義はたやすく翻弄される。見つからない手がかり、迫るタイムリミット。絶体絶命の老刑事が己の矜持をかけて臨む運命の20日間。

出版社…講談社

【絵本】

きみのぞみななんですか？

五味太郎 作

「なにがすき？」「なにをみてるの？」「ぞう、テレビ、つくえ、トラック、がいこつなど、さまざまな存在に向けられた問いかけ。具象と抽象とがあわさった、「アートと哲学とユーモア」を楽しめる絵本。

出版社…KTC中央出版

図書館の本棚から

【一般書/伝統芸能】

狂言を生きる

野村万作 著

戦後から現代に至る激動の時代を狂言師としてしなやかに生きてきた人間国宝・野村万作。芸の神髄に迫る狂言「芸話」、さまざまな邂逅、未来の狂言へのメッセージを収める。『東京新聞』連載ほかに加筆修正して書籍化。

出版社…朝日出版社

【児童書/読み物】

境い目なしの世界

角野栄子 著

クラスメイトのミリと意気投合したヤエ。しかし、そのうちミリが学校を休むようになり、憧れの男子コウまでも休みがちに。街でコウを見かけ後を追ったヤエは、不気味なフィギュアだらけの建物に飛び込んで…。

出版社…理論社



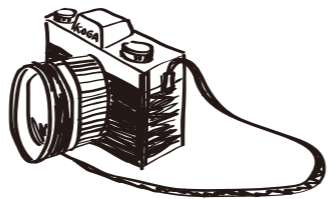
三和図書館

1955 昭和30年



提供：鈴木路雄氏

古河 今昔物語 Time Travel Photograph



2020 令和2年



昭和30年の鍛冶町通りの写真です。昔から商店が並び、にぎわいのある通りでした。2人の女の子は、おつかいに行くのかな。

【募集】このコーナーに掲載する昔の総和地区の写真を探しています。お持ちの人は⑧シテイプロモーション課(92・311)までご連絡ください。